

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970300448		
法人名	株式会社ユイマツトそよ風		
事業所名	栃木グループホームそよ風		
所在地	栃木県栃木市沼和田町10-10		
自己評価作成日	平成24年10月18日	評価結果市町村受理日	平成25年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成24年11月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

栃木グループホームそよ風は栃木は栃木駅南口の静かな住宅街にあり、公園やスーパーに隣接した生活しやすい環境です。「楽しい・嬉しい・ほっとする」そんなホームを職員全員が目指して支援しています。利用者と毎日家事を行い、一人ひとりが出来る自分の力を活かしハリのある生活を送り、けて無理強いせず出来る限り本人の意向を聞き見守り支えています。面会や家族会の参加を促し利用者と家族の絆が途切れないようにし家族の意見や希望をききサービスに反映し家族と共に利用者が笑顔で生き生きと暮らせるホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは栃木駅南口に近い区画整理された閑静な住宅地にあり、近接して公園やスーパー等があり生活しやすい環境にある。また、隣接のデイサービスセンターと共に、地域との交流を大切に考え、月2回地域老人会への参加、生け花教室の指導、季節ごとの行事を通じた交流、日常的にも散歩時等に交流が図られている。職員は、利用者の個性を尊重した支援に取り組み、一人ひとりに合った声掛けや無理強いしないよう支援し、出来る範囲で役割を担ってもらい、張りのある生活を営んでもらうよう心がけている。家族会があり家族の意見や希望が発信しやすい環境になっている。運営母体が全国展開をしている法人のため、ホームの運営や各種の情報提供、職員研修を行い質の向上を図る取り組みを行ったり、ホームの運営に対する支援体制が確立されている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印					
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと				
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない				
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように				
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度				
			3. たまにある				3. たまに				
			4. ほとんどない				4. ほとんどない				
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない				
			4. ほとんどいない				4. 全くない				
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない				
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が								
			2. 利用者の2/3くらいが								
			3. 利用者の1/3くらいが								
			4. ほとんどいない								

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域でいきいきと誇りを持って生活出来るホームを目指した独自の理念を作り上げている。朝礼時に理念を唱和し常に理念に向けた具体的ケアの統一の実践に努めている。	法人の統一スローガンの他、当ホーム独自の理念を作り上げ実践に取り組んでいる。毎朝の唱和により確認と動機付けをしている。日々の支援を振り返り、職員会議で協議し、日常支援における対応について注意し合うなどして共有化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や近隣の保育園児と年4回の交流・地域の講師による生花教室・敬老会の月2回参加し交流を深めている。	自治会に加入し、民生委員の紹介による地域老人会月2回の集まり「ゆうゆう会」には、利用者が毎回参加したり、地域の行事に積極的に参加するほか、事業所の行事にも参加を仰ぎ交流を図っている。特に保育園児との交流が喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のお店に買い物行ったり外食にしたり、月2回の敬老会参加を通じて、地域の方に認知症の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ボランティアを行っている方に参加して頂くことにより以前より幅広い意見を頂く事が出来る。民生委員からは、地域の情報を頂いている。	定期的開催し、事業所からはホームの概要や利用者の状況などを報告し、家族等の委員からの意見、民生委員から地域の情報、ボランティア活動家からの意見がありそれをサービスの向上に活かしている。	今後、さらに地域との連携を深めるためにも自治会長等の参加や、会議内容の検討、それに応じた関係者（機関）の参加を依頼するなど、さらに会議が充実し運営に活かせるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員でもある地域包括支援センター職員に推進会議に参加頂き、ホームの現状や課題等の共有化に努め、連携を図っている。	地域包括支援センター職員が市職員であり、運営推進会議に出席し、事業所の取り組み状況や利用者の実情等について理解が得られている。また、具体的な相談などにも応じてもらっており、連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠やベットを壁から離して配慮し全体に身体拘束しないケアに取り組んでいる。拘束についてはその都度場面で個別に対応を確認している。	職員研修会で身体拘束をしない取り組みの共通理解を図ったり、職員会議などでも話し合っている。日常においても利用者の表情や動きを見ながら行動を予測したり、願望を汲み取りながら支援し、日中は施錠せず開放している。職員間でも言葉づかい等気づいた事があれば注意あっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は研修会に参加し全職員へ周知徹底しホーム内での虐待防止に努めている。		

栃木グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修参加の機会を確保し必要に応じた支援体制の整備に努めている。個々の必要性があるときは活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	当初の契約に限らず制度改正に伴う報酬加算、料金改定の説明を分かりやすく明示し納得、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に年2回家族会を行い、また今年は家族同士でも意見交換が出来るよう懇談会を行う。運営推進会議でも家族の意見を聞いている。	運営推進会議参加の他、年2回行事に合わせて家族会を開き、運営に対する意見や要望を聞いている。面会時など積極的に聞くようにしており、希望や意見が多く出されている。出された意見や要望は会議などで話し合い運営に反映するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見交換を交わし全体会議ですべての職員の意見を聞いたり提案する機会がある。	毎月開催する全体会議には全ての職員が発言する機会を設けている。他にもケアに関してのアンケートをとり、日常においても気兼ねなく管理者に発言し、意見交換を行いそれを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場第一主義を念頭に置き職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を定期的に実施しておりスキルアップにつながっている。外部研修に於いても情報交換と時間の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会主催の研修に参加することで他事業者間との交流の機会が確保され、情報の共有が図れており、良いことを取り入れている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学も含めて来所してもらい面談の機会を確保し本人を交えて確認とり心理的不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学も含めて話し合いの時間を確保し家族の訴えを聞き家族と一緒に本人を支援していく姿勢で関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状必要とされていることを本人家族の言葉から把握し専門知識を持って入居者本人の為のケアを第一に考え対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は自立支援を心がけ本人の出来る力、持っている能力を活かしながら共に生きる姿勢で生活し支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子や変化など本人の情報を伝え共有し、一緒に支えていける関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り本人の馴染みの関係が途切れる事なく継続出来るよう家族に支えられながら支援している。	入居後自宅を訪れた際に近所の方が来て話しをしたり、以前利用していた店や美容室を訪れている。家族等の協力を得たり、事業所が個別支援をするなど、地域との関係が途切れないように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活のなかで利用者が周囲の変化を受け止めながら自然と助け合うことの出来るような関係づくりに努めている。		

栃木グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの違いを尊重し、その方に合った暮らしが出来るように努め、いろいろな面から感性をもち職員間で共有を図り努めている。	これまでの生活歴を家族等から聞くとともに、日常生活の中から利用者一人ひとりの表情や言葉のトーン、態度、顔の雰囲気、行動などから、職員の感性を生かし、話し合いをして思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の生活背景を家族や知人の聞き取りにより状態の把握に努め、不十分なところは家族、関係機関により確認を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの中で出来る力、分かる力を明確にしひとり一人の暮らしぶりを観察分節し把握出来るようにする。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時、更新時、入退院時等本人家族・担当職員・ケアマネ・主治医の意見を反映した介護計画を作成している。	本人の状況や家族の意向などを把握しながら毎月モニタリングを行っている。家族とは面会時に話し合いを行い、ケアマネジャーや主治医の意見を参考にし、それを介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画は期間に応じた見直しは随時行っているがカンファレンス・モニタリングにより見えてきた課題については見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の状況の変化に応じて必要と思われる支援を柔軟に取り入れるようにしている。		

栃木グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて地域の方々の力を借りて豊かなくらしが出来るようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も家族との相談の上、かかりつけの医を決めている。主治医に本人の情報が提供出来るよう家族と連携をとり緊急時の対応も事前に相談している。	本人や家族が希望する医療機関の受診を尊重し、協力医には約半数の利用者が定期的に受診している。かかりつけ医受診時には、家族に本人の状況をメモで渡したり口頭で伝え、情報を提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化に気づいたら速やかに看護職員に報告し指示を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、医療機関との連携を図り指示指導を受けたりして早期に退院出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて、事業所としてどのようなことが出来るのか、その都度方針を決め伝え全員が共有出来るようにしている。	重度化や終末期の方針は入居時に家族等に話しているが、看取りの実績はない。職員会議で話し合ったり共有化は図っているが、医療機関との連携体制や夜間体制などのあり方を検討中である。ストマ装着やバルン装着といった利用者に対しても積極的な支援を行っている。	事業所としての体制や、職員・家族などの協力、医療機関の協力関係など、事業所としての出来る事を話し合い、検討中の課題に取り組み、重度化や終末期に向けた方針の共有と支援に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個別に緊急ファイルを作成し、基本的な応急処置についての知識を持ち急変時や事故発生時にそなえている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練を実施し、職員全員に周知している。ショートステイやサービス付き高齢者向け住宅の協力体制を整えている。水や食料の備蓄管理は行っている。	年2回定期的に避難訓練を実施しており、今年は夜間想定訓練も実施した。近接のショートステイやサービス付き高齢者向け住宅との協力体制は整えており、民生委員を通して地域の協力を依頼しているが訓練を共には行っていない。水や食料の備蓄はしている。	消防署の協力を得ながら、法人内はもとより、運営推進会議を活用し具体的な話し合いを行い、地域消防団や近隣住民等との協力体制を構築することに期待したい。

栃木グループホームそよ風

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの違いを尊重し言葉かけや対応をしている。人権侵害のないよう心がけている。	職員は、利用者一人ひとりの気持ちを大切にし、日々のケアをしながら気持ちを確かめ、言葉かけやさりげない誘導などを行い、自尊心を傷つけない支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いなどに気づき夜間などの落ち着いた時間に感情表現が出来るようにしている。指示ではなく伺う姿勢を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるがその都度利用者の意思を優先しながら見守り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節を考慮しながら本人の希望にあった服装や髪形が出来るようにし、おしゃれを褒めることにより身だしなみを大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者で食材のカットや盛り付けを一緒にし本人の好みや力を発揮してもらっている。作業を分担してもらったり交代でおこなっている。	昼食は法人の厨房で調理し、ご飯や味噌汁の盛りつけ、朝食と夕食の調理はホームで行っている。利用者はできる範囲で食材のカットや配膳、下膳などを行い、職員はテーブルで同じものを摂っている。買い出しは週に何回かに分け、利用者1～2名同行している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス・カロリーは栄養士が管理している。咀嚼や食事量によって個別に対応し水分量が少ないときは声かけ促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。自らは行えない時は声かけ促し、または介助して清潔保持に努めている。		

栃木グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握して声掛けトイレ誘導を行っている。日中は出来る限りトイレでの排泄を促して支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄支援に取り組んでおり、日中はほぼ全員がトイレ排泄となっている。夜間は歩行に支障をきたしている方などはポータブルトイレを利用している。リハビリパンツ使用からトイレに行けた例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者によってはチェック表により便秘薬の服用を行っている。服薬に頼らず乳製品などの摂取や体操などで便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に合わせた毎日の入浴を支援している。一般浴が不可能な利用者にはデイスサービスの機械浴で入浴を行っている。	毎日午後3時から夕食前にほぼ全員が入浴している。拒否傾向のある方や入浴順にこだわりがある方などは、声掛けやタイミングを考慮しながら誘導している。入浴剤を時々使ったりユズや菖蒲を入れたりして季節感を楽しんでいる。法人デイスサービスの機械浴を利用する方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に身体を動かしたりして活動を十分にを行い規則的なリズムのある生活が送れるようにしている。寝具の調整・室温・照明など本人に合わせる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬リストを作成し内容を把握し主治医の指導のもと管理している。服薬時には2名の職員で確認し誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来ることを見極め役割を提供し持っている力を活かすことで自信を持って楽しめるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候を考慮して散歩は毎日行けるようにしている。少し離れた場所へは車で出かけるようにしている。地域のお店の方の協力のもと歩いて外食へ行くこともある。	散歩は近隣を毎日数名のグループに分かれて20分位行っている。車を利用する場合は、道の駅に行ったり菊祭りを見に行っている。近所の理解ある蕎麦やさんの休業日に、外食を楽しむ事もある。買い物は、週何回か1～2名ずつ行き、好きな物を買ってきている。	

栃木グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は通常事務所で預かりしているが買い物へ行く時は個人の力量に応じ欲しい物を本人が買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも事務所の電話は使用可能にしている。家族から電話があった時は了解のもと本人と話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は毎月掲示物等を交換して季節感のある飾り付けを心掛けている。また、採光・温度・音などにも配慮しゆったり過ごせるようにしている。	共用空間はゆったりとしたスペースがあり展示コーナーが設けられている。毎月展示物等を交換し、季節感が得られるよう配慮し、また利用者の創作品等を掲示している。温度や換気なども快適に過ごせるよう中央でコントロールされており、居間近くのトイレの匂いは特に注意を払っている。利用者は、毎日9時から10時に、出来る範囲で職員と共に清掃をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席など気の合った利用者で座れるようにしたり、玄関ホールにベンチを置きひとりになれたり利用者で座ったり出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は一人ひとり思い出の物や馴染みの物を持ち込まれ安心出来る空間になっている。本人が居心地よければ物が片付いていなくても危険因子・衛生面で支障ない限り本人の意思にまかせて見守っている。	居室は馴染みの物などの持ち込みは自由になっている。ベッド、タンス、ボード、いす、その他テレビ、仏壇など銘々に持ち込んでおり、創作品や写真を飾ってある。一人ひとりが、自分の城として居心地よく過ごし、編み物を楽しんでいる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活出来るよう館内はバリアフリーで手すり設置・床材など配慮しリビングは見通しの良い作りになっている。居室には表札、トイレにわかりやすい表示をし自分で行動出来るようにしている。		